年を重ねる杜
ー多世代が暮らし働くまちのかたちー

AJ16099　本多　みずほ
指導教員　郷田　修身
担当教員　山代　悟

高齢社会

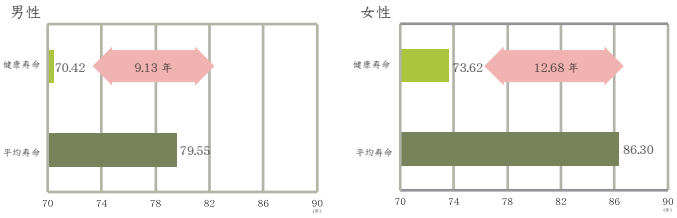
日本の人口は、2019 年 9 月現在推計 1 億 2617 万人と 2011 年以降減少している。一方で高齢者は年々増加している。
総人口に占める高齢者人口の割合は 28.4% となり、今後も増加し 2025 年には 30.0%になる。

介護に関する問題

1、介護サービス利用者の増加　　2、老々介護・高齢者の一人暮らし　　3、高齢者の虐待

平均寿命と健康寿命の差を縮める

平均寿命と健康寿命との差は、日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味している。

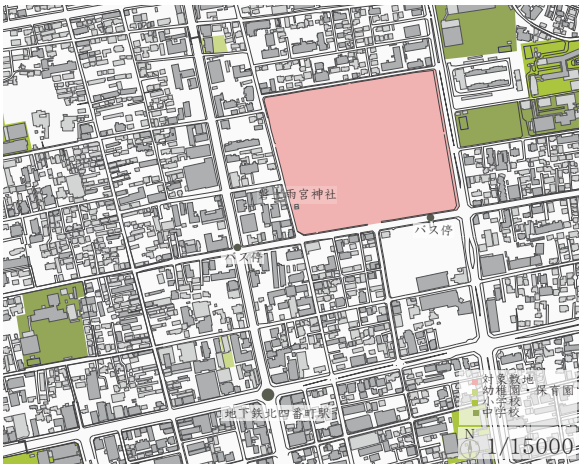


健康寿命を伸ばすためには・・・

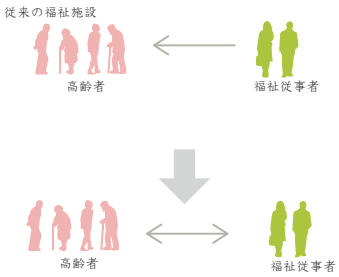
生活の質を向上させる必要がある。
健康だけでなく精神的に充実させるために、退職後も仕事をしたり地域での居場所ややりがいを見つけたり、趣味や楽しみを見つけることが必要。

杜の都　仙台

対象敷地は仙台駅からみると北の方向に位置している。
距離は約 3 km、車で 15 分ほどの場所にある。
公共交通機関を利用しても行くことができ、地下鉄で２０分ほどで行くことができる距離である。バス停も近くにあり交通の便が非常に良い場所である。



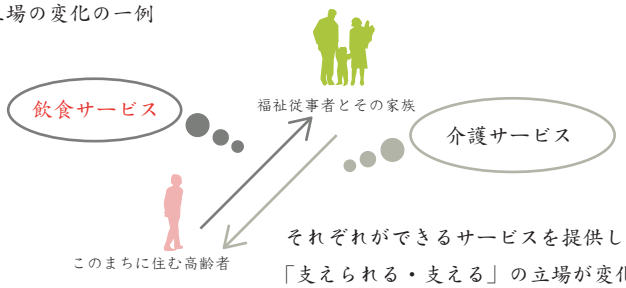
支えられ、支えるまち



支えられる側と支える側の立場が変わらない

支えられる側と支える側の立場が入れ替わる

立場の変化の一例



それぞれができるサービスを提供しあうことで「支えられる・支える」の立場が変化する

Title:　toshiwokasanerumori

Mizuho Honda

現代の日本は高齢社会であり、「介護」に関する問題が様々挙がっている。どのような環境で介護を受けるか、いつから受けるかが生活の質を左右する重要な要素である。従来の福祉では介護を受ける側と介護する側の立場が変化することはない。介護を通した「支える・支えられる」という立場が入れ替わることで高齢者が生きがいや新たなやりがいを見つけ生活の質を向上させることができるまちを提案する。

都市計画

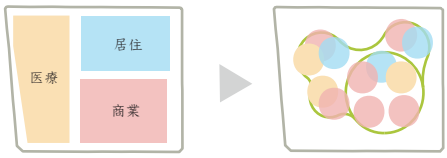
300m×300m の敷地で
回遊性のある動線を作り出す

敷地全体を回遊できるような
道筋を作る

出っ張りと引っ込みをつくる
ことで区画の大きさに差を作
り引き込む部分を作り出す

周辺より高い建築になるのでセットバックをさせながら緑化すること
で杜のようなまちをつくる

建築計画

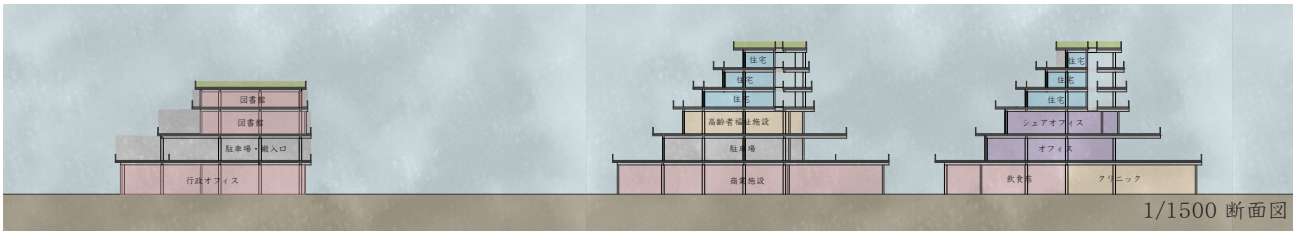
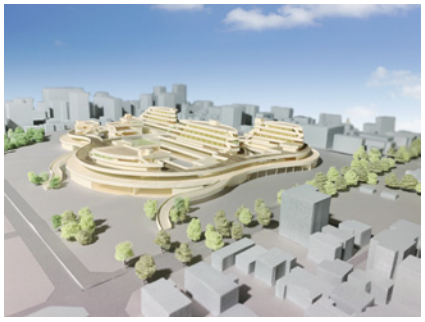


用途に応じた区分けが行われていて
用事がある場所にのみ訪れる

用途を混ぜた配置を行い用事がある
用途以外の場所も訪れる配置にする

回遊性のあるまちを建築にも引き込む

道路と歩道を建築に取り込むことで周辺と
の隔たりをなくす



1/1500 断面図